



精神・発達障がいのある人に、あたりまえの労働を
～地域に支えられたひかり工房の取り組みから～

社会福祉法人 さっぽろひかり福祉会の沿革

～障がいのある人たちと ともに働き、生活をささえる～

2003(平成15)年 精神障害者授産施設「ひかり授産施設」

精神障害者地域生活支援センター「あさかげ生活支援センター」

「グループホームクレスト元町」

さっぽろひかり福祉後援会 会員約280名



2006(平成18)年10月 相談支援事業所「相談室あさかげ」・地域活動支援センター「あさかげ生活支援センター」へ移行

2007(平成19)年4月 「ひかり授産施設」を就労継続支援B型、就労移行支援(多機能型)事業「ひかり工房」へ移行

2010(平成22年)4月 光共同作業所を、就労継続支援B型「光ファクトリー」へ移行

2014(平成26)年4月 「ひかり工房」就労継続支援A型(10名)、就労継続支援B型(10名)、

就労移行支援(15名)へ変更

2016(平成28)年4月 「ひかり工房」就労継続支援A型(15名)、就労継続支援B型(13名)、就労移行支援(12名)へ変更

2016(平成28)年10月 「第2ひかり工房」就労継続支援A型(10名)

さっぽろひかり福祉会で大切にしたい視点 『A型事業は「権利性の回復」』

「授産事業に対する労働基準法の適用除外について」(26年通達)により、多くの障害者が働く福祉的就労(非雇用型)の場が、労働法規の適用から隔絶されてきた。

失われた権利の回復

障害者の違法な無権利状態の克服を第一義的に考える。

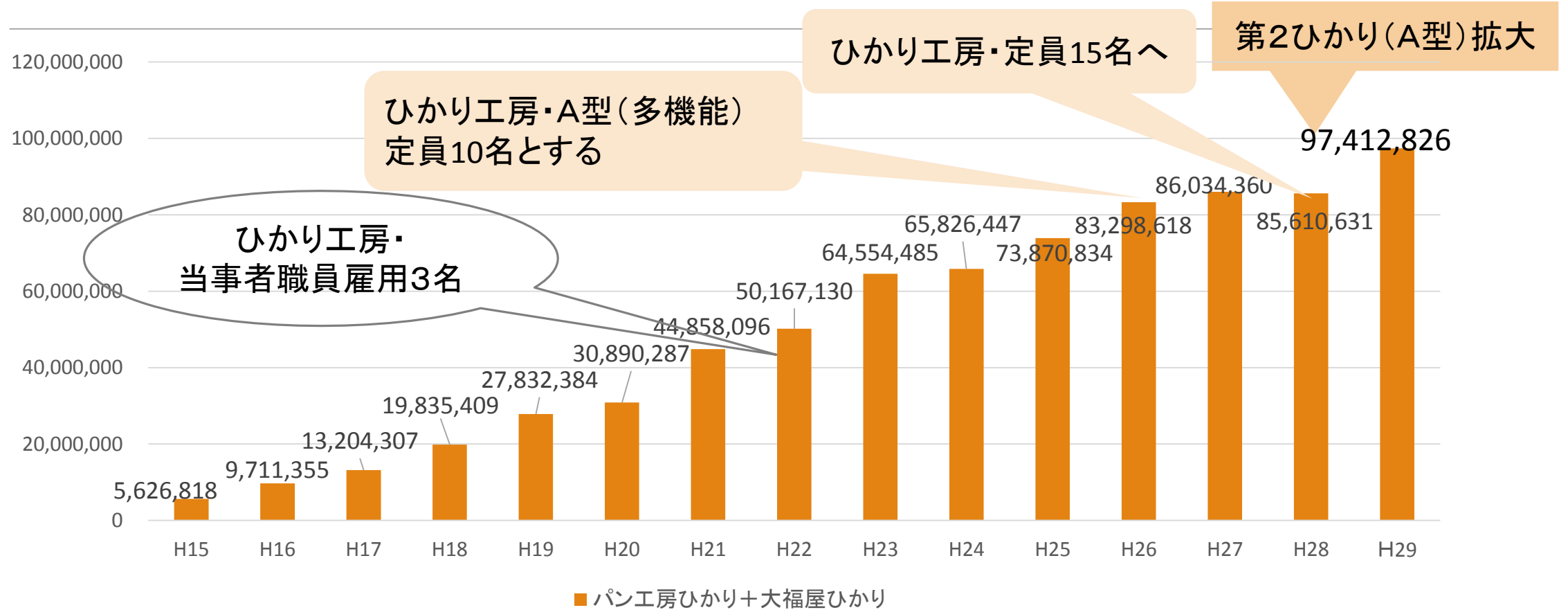
それぞれの自己実現

さっぽろひかり福祉会A型事業の概要

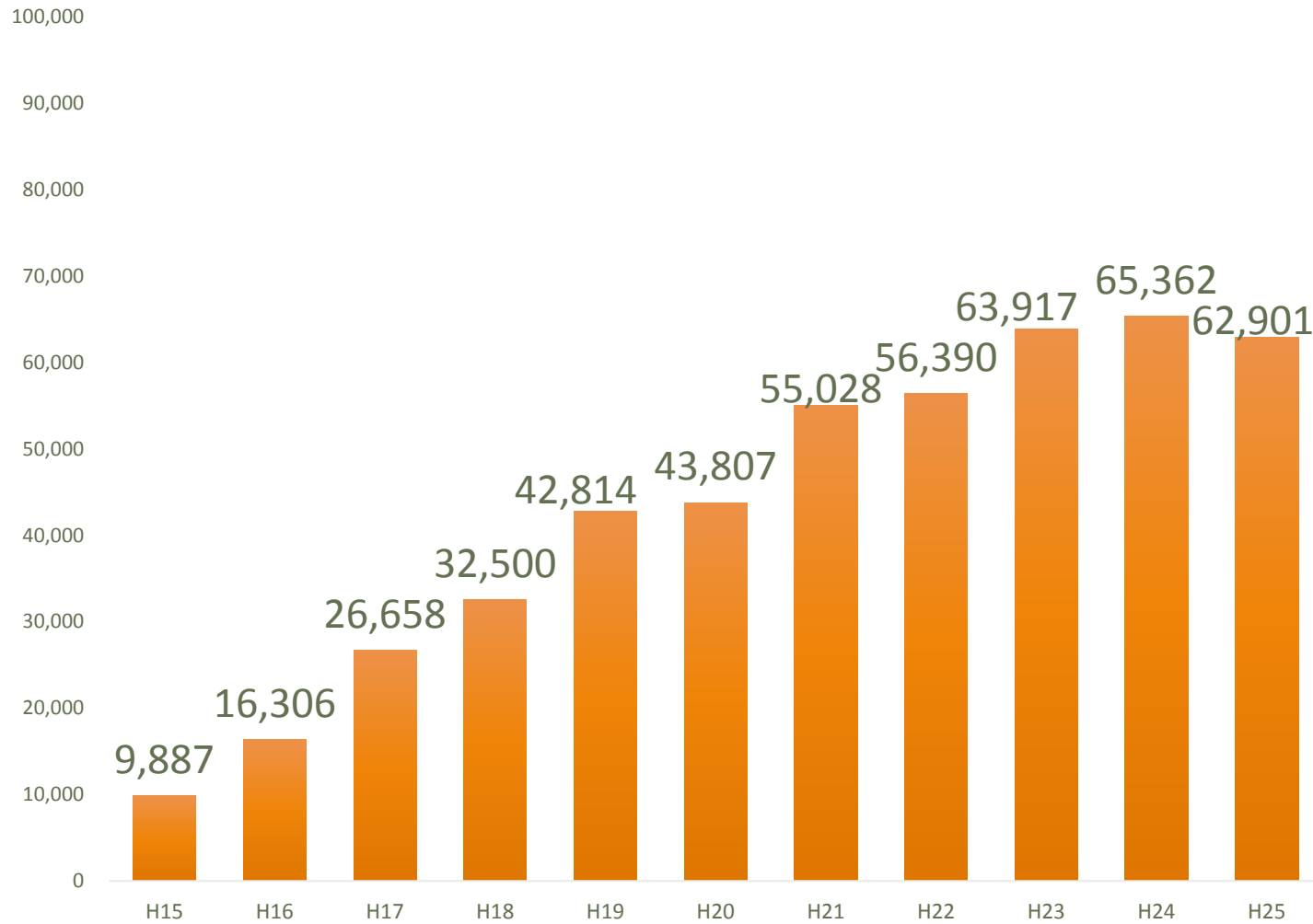
目的:精神・発達に障がいのある人たちの所得保障と雇用の実現～誰もが働きやすい社会を目指して～

	ひかり工房(多機能型)	第2ひかり工房(単独型)
事業種別 (定員)	就労継続支援A型(15名)、就労継続支援B型(13名)、 就労移行(12名)	就労継続支援A型(10名)
作業内容	パンの製造・販売	大福の製造・販売
職員体制	管理者兼サービス管理責任者(1名) 職業指導員(常3名※兼務1名、非2名) 就労支援員(常1名) 生活支援員(常1名、非2名) 賃金向上達成指導員(常1名※兼務、非2名) 目標工賃達成指導員(非2名) ※うち障害者雇用6名	管理者兼サービス管理責任者(1名) 職業指導員(常1名※兼務) 生活支援員(常1名) 賃金向上達成指導員(常1名)

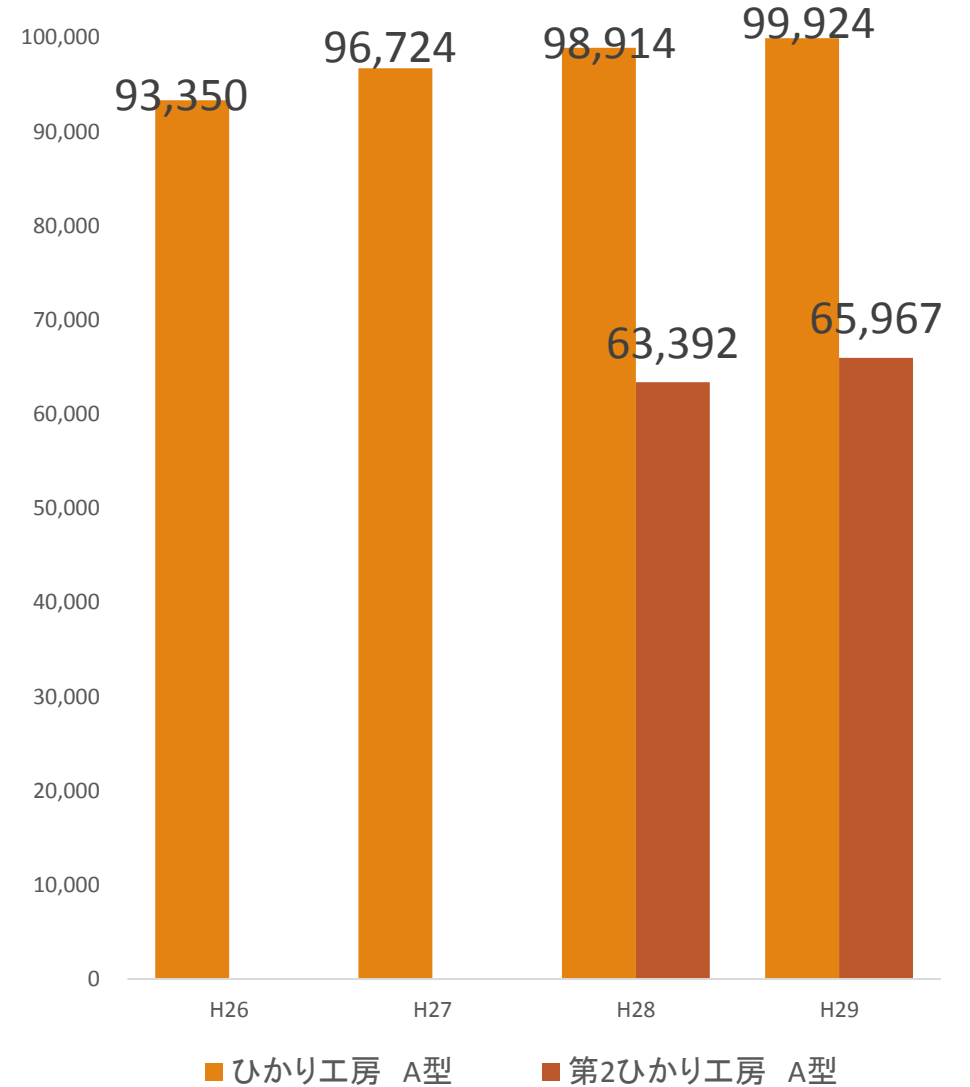
パン・大福年間売上の推移 (H15年度～H29年度)



ひかり工房 平均工賃(H15~H25) 就労移行・就労B



ひかり工房A型・第2ひかり工房 A型 平均賃金(H26~H29)



ホッフ!

(H15年度→H19年度)

『5年で売上5倍、平均工賃3万円超』

一流のプロから学ぶ(パン職人の雇用)

外国産小麦から道産小麦への転換

道南・森町の自然有精卵使用など

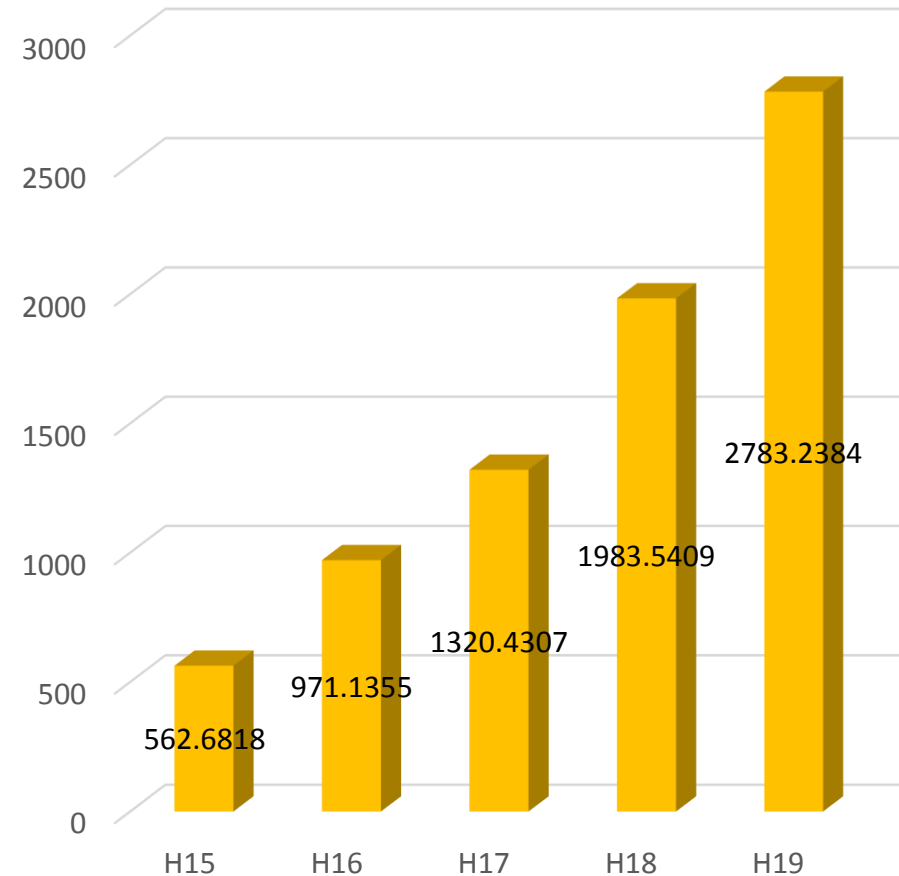
天然酵母パン等の商品開発

販路拡大(直販先ルートの開拓)

地域密着型に活路(さっぽろひかり福祉後援会)

行政、関係企業、精神科病院、学校

製造複数体制の構築



ステップ!

(H20年度→H25年度)

『平均工賃6万5千円へ』

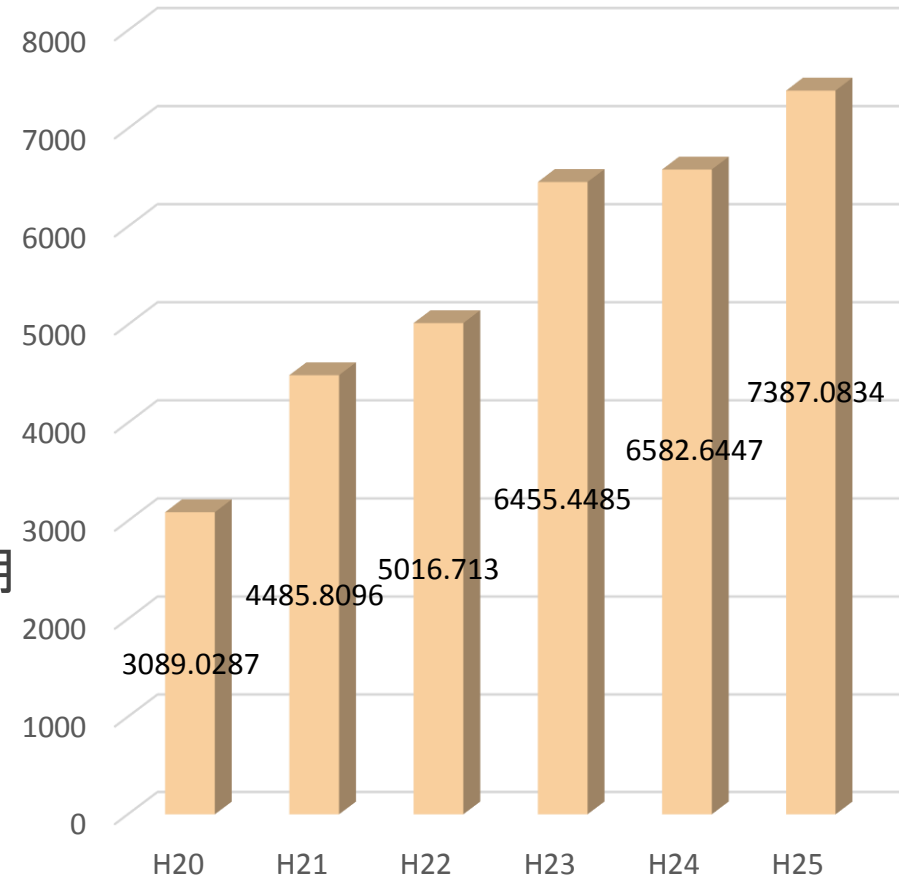
企業・大学とのデザイン連携

販売先100カ所超(地域ネットワーク構築)

大学からの大量受注(2100set@800)

工房設備、店舗の増設

人材育成により、当事者リーダー6名の職員雇用



ジャンプ!!

(H26年度～)

『A型事業開始、雇用事業拡大！へ』

課題① 石窯オーブンの導入(助成金)による
石窯パンのアピール

課題② 差別化・看板商品の開発

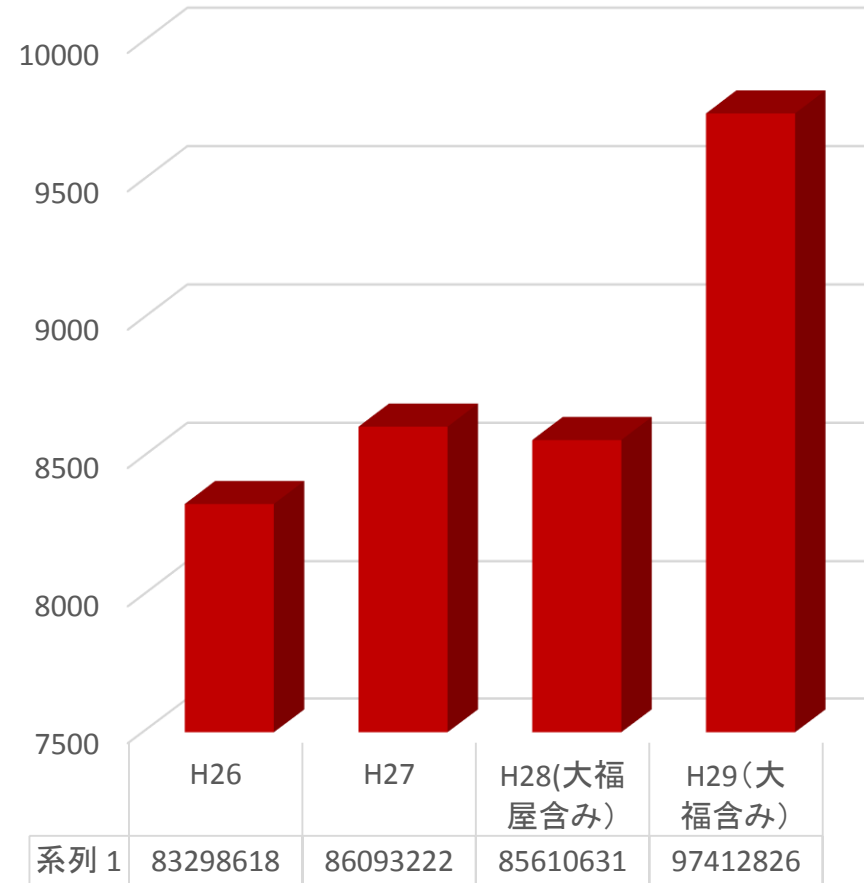
課題③ 製造工程の効率化

課題④ より身近な地域のお客さまを増やす

課題⑤ 所得保障と働くモチベーションのアップ

課題⑥ 現店舗(パン工房ひかり+大福屋)
売上10倍計画

課題⑦ パンをとおして、地域に根ざし、地域貢献



まとめ

- A型事業開始までに11年
- 半径13kmを中心とした販路、地域に集中したお客さまづくり
- そして、広域から狭域へ
- 地産地消(地元の食材を活かした商品)
- 人材育成は、コミュニケーション力よりものづくり
- 集中化(商品はパンに集中)
- 単純化(工程は単純化)
- 規則化(販売は規則化)
- 働きがいのある職場づくり、ともに働く職場づくり